

〔論文〕

短期大学における「図書館実習」の現状 —他大学および大阪城南女子短期大学の場合—

北川 昌子

1. はじめに

公立図書館の司書資格は、図書館法に基づく国家資格であり、修得すべき科目は文部科学省令である図書館法施行規則¹⁾により定められている。国内の司書養成科目の開講大学（短期大学を含む）は、2007年7月調査時、219大学²⁾、2015年9月1日現在で212大学（文部科学省）³⁾とされている。2016年12月28日現在、文部科学省のリスト上の開講大学数（短期大学を含む）は211大学あり、うち4年制大学は156、短期大学または短期大学部（以下、「短大」という）は55短大と、開講大学数は減少傾向にある³⁾。また、本稿の調査によると、短大の開講大学数は今後さらに減少することが予想される。

司書資格は、図書館法施行規則の甲群（必修科目）から22単位、乙群（選択科目）から2単位の計24単位以上を取得することにより得られる¹⁾。その司書養成科目のうち、「図書館実習」は、2009年度の図書館法施行規則の改正（2012年施行）による司書カリキュラム改訂の結果、新カリキュラムの選択科目の一つとなった。

一方、関西2府4県（大阪、兵庫、京都、滋賀、奈良、和歌山）で司書資格が取得できる短大は、大阪城南女子短期大学（以下、「本学」という）を含め7短大、大阪府下では3短大のみである。本学現代生活学科には、4年制大学に進学しなくても、将来、憧れの図書館や書店に関係する仕事に携われる希望をもって、司書資格の取得に励む学生が在籍している。

本学では、司書カリキュラム改訂に伴い、従来から「企業実習」のうちの一つとして行ってきた「図書館実習」を、2012年度入学生から科目「企業・学外・図書館実習」の中に位置づけていたが、2014年度入学生からは、科目「図書館実習」として実施している。

本稿は、司書養成科目を持つ全国の短大のシラバス調査を行った上で、本学の最近の図書館実習館での業務内容および実習生の評価結果等から、「図書館実習」の現状を捉え、今後の司書養成科目や実習前指導等に生かすことを目的としつつ、「図書館実習」の在り方を考察するものである。

2. 司書養成科目における「図書館実習」の位置づけおよびカリキュラム改訂

2.1 カリキュラム

短大の授業科目の単位数は、学校教育法の規定に基づき、文部省令の短期大学設置基準第7条第

2項で定められている⁴⁾。単位は「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準」とし、「授業科目の単位数を講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で短期大学が定める時間の授業をもって1単位」、「実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で短期大学が定める時間の授業をもって1単位」、さらに2つ以上の方法の併用の場合にも、これらの基準を考慮して同様に1単位とされている。現在、司書養成科目もこれが適用されている。

このうち、「図書館実習」については、司書養成側と実習図書館との両者間で、その必要性が早くから認識されていた。短期大学設置基準が施行された1976年の『図書館雑誌』（日本図書館協会）では「図書館実習」について特集が組まれている。「図書館実習」は、「生きている図書館の直視」⁵⁾ができる機会を得ることができ、「図書館員の姿は何よりの教師」⁶⁾と考えられ、座学で学ぶだけでは得られないものとして、「教室から現場へのかけ橋」⁷⁾など、実習の意義を捉えられていた。これらの実習のもつ意義や効果は、図書館界の発展に役立つもの⁸⁾として、基本的には現在も変わることはないと考えられる⁹⁾が、図書館施行規則において、正式に乙群と明記され選択科目となったのは、2009年のことである。

この約40年間には、ICTの発達・普及による情報化、国際化、高齢化による社会の急激な変化や生涯学習社会の構築の重要性から、1996年に文部省（現在の文部科学省）は、図書館法の規定に基づき、図書館法施行規則の一部を改正している。しかし、この時は司書養成科目の改善により、「生涯学習概論」等の科目が追加されたものの、結果的に「図書館実習」については科目として言及されず、組み込まれなかった^{10), 11)}。

2006年3月に、これからの図書館の在り方検討協力者会議（以下、「協力者会議」という）が、「これからの図書館像―地域を支える情報拠点をめざして―」として、図書館が果たすべき地域の情報拠点としての提言をまとめ¹²⁾、ついで、2008年6月に「図書館職員の研修の充実方策について（報告）」を公表している。

同年6月には、教育基本法の改正（2006年12月）を踏まえて、図書館法の改正が行われた。さらに、協力者会議は、司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目について検討しその結果を、「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について（報告）」（2009年2月）にまとめている¹³⁾。

この報告において、「図書館実習」の内容については、次のように記述している。

- 実習は、地域の様々な利用者と接し、多様なサービスを提供することが求められる公立図書館業務の実態を知り、学生自らが司書としての適性を考えるための効果的な機会である。
- しかしながら、それぞれの地域の図書館によって実習生の受け入れに関する事情は一様でないことから、それぞれの地域の状況と各大学の判断により、「図書館実習」を選択科目で実施することが好ましいと考えられる。

- ここでいう図書館実習とは、図書館に関する科目の学習で得た知識・技術をもとに、事前・事後学習の指導を受けつつ、原則として公立図書館における業務を経験することを指す。
- 充実した図書館実習を実施するために、図書館と大学の間で、相互に協力的な連携関係を結ぶことが必要である。

この報告を受けて、同年、図書館施行規則の改正が行われ、「図書館実習」は、図書館に関する科目として明記された。各大学教育関係機関へは、「図書館法施行規則の一部を改正する省令及び博物館法施行規則の一部を改正する省令等の施行について（通知）」(2009年4月)¹⁴⁾により通知があった。

「図書館実習」とは、「図書館に関する科目の学習で得た知識・技術をもとに、事前・事後学習の指導を受けつつ、公立図書館業務を経験させる」と定義されている。

また、協力者会議の報告にあったように、「図書館実習」を「司書としての適性を考えるための効果的な機会」としながらも、実習生を受け入れる図書館の負担を考慮し「地域の状況」を鑑み、「選択科目で実施すること」、また、「事前・事後学習の指導」による「公立図書館における業務」の経験や、司書養成大学と図書館との間で「協力的な連携関係」を結ぶ必要性を述べている。

このほか、改正後の図書館施行規則においても、前述の短期大学設置基準と同様、実習の時間数は「1単位30～45時間」と明記されている。また、図書館に関する科目は、他の学問分野の科目と同様に、「講義科目については1単位あたり15時間」、「演習科目については1単位あたり30時間を想定」しており、大学の開講ではこの時間数を確保することが努力義務とされている^{14), 15)}。

「図書館実習」の選択科目化の背景には、すでに他分野（医療、教育等）で確立され制度により実施されていた実習、企業実習・インターンシップの潮流や、社会の急速な変化がある。さらに、図書館界では、司書養成大学と実習生を受け入れる図書館との相互連携により、長年にわたって実践された実績があり、この改正によって教育制度上も正式科目となった。

2.2 「図書館実習」の意義

「図書館実習」の目的や意義については、「図書館実習」について2007年から調査を重ねてきた川原ら（2013年）¹⁶⁾が挙げる次の点（①～⑤）を再掲し、内容を要約して再確認したい。

① 「理論・技術の現場での確認・応用」

教育機関で教えられたことを、実際の職場で体験し具体的な事例で確認する。

② 「教授の困難な事情の感得」

専門職・非専門職等の職場のチームワークや連携によって、業務が遂行される相互関係等を感じ、実践的に体験する。

③ 「実習生の人間的な成長」

未経験のことを経験したり挑戦したりして、仕事のやりがいや再確認し、自己変革を遂げて人間的に成長する。

④ 「実習生による適性の判断」

専門職の現場を経験することにより、職業に対する安易な気持ちを改めたり、自分の適性を判断したりする。

⑤ 「実習の副次的メリット」

実習生の育成だけでなく、教育機関と実習受入館との人的ネットワークが形成され、情報共有ができたり、優秀な人材の採用の可能性が広がったりする。

②の点については、「表現は十分だろうか」とする意見もある¹⁷⁾にせよ、これらの点は、司書課程をもつ大学教育機関の基本的な認識と考えられる。

3. 国内の「図書館実習」

国内の短大の「図書館実習」の状況と本学とを比較するため、まず司書課程をもつ短大の「図書館実習」の実施状況について、先行研究と筆者の調査から述べる。

3.1 国内の「図書館実習」の状況

国内の最近10年の「図書館実習」については、前川をはじめとして川原ら4名が2007年から2016年にわたり実施した調査が全国規模であり網羅的である。2007-2008年にかけて全国の司書課程をもつ大学（短大を含む）を対象に行った計3回の調査¹⁸⁾、実習を受入れたことのある公立図書館を対象とした2009年9月の調査¹⁹⁾、次に同メンバーが、それらをまとめたうえ、2010年4月および同年8月の調査の結果を加えて編集された著書『図書館実習Q&A』²⁰⁾、実態報告²¹⁾、最近では2016年実施の『図書館実習Q&A』グループによる「司書課程における図書館実習状況調査」²²⁾等がある。

以下は、後述の短大との比較をするため、『図書館実習Q&A』から関連する事項の概要をまとめた。

① 開講状況

「図書館実習」を行っている大学の司書課程の数は、同グループによれば、「2011年度調査で48校」、2012年の見込みで「80校を超える」と予測している²³⁾。

② 「図書館実習」の日数

「図書館実習」の日数は、5日～7日が101大学、8日～14日が136大学（有効回答数252、2010年現在）で、2週間から1週間が79.3%との結果を出している²⁴⁾。

③ 参加学生数

2007年の調査では、科目外や選択科目の場合の参加する学生は、1大学当たり4.0～6.5名であっ

た²⁵⁾。

④ 「図書館実習」の内容

2010年の調査によれば、「図書館実習」の内容は、全国レベルでは、実習図書館の都合もあるため「実習図書館に一任する例が多い」が、「教員が実習図書館と話し合う」ことが理想的とされる。2010年の調査において、公立図書館からの回答（有効回答数252）によれば、次の実習内容と方法であった（表1）。

実際に作業・演習をした実習内容は、「資料排架や書架整理」、「カウンター業務」、「受入・装備」、「開館準備・閉館準備」が60%以上の図書館で実習されており、次いで、「予約やリクエストの処理」および「おはなし会・読み聞かせ」も40%程度行われている。このほか、「レファレンス・サービス」、「目録・分類」、「移動図書館」、「行事」、「相互貸借」がそれぞれ回答した図書館の約25～36%で実施されていた。

表1 国内の「図書館実習」の内容（2010年の調査）

項目 No.	実習内容	(ア) 説明・ 見学	(イ) 実際に 作業・演習	図書館からの有 効回答数 (252) に占める (イ) の割合
10	資料排架や書架整理	59	191	75.8%
11	カウンター業務	55	188	74.6%
6	受入・装備	71	164	65.1%
9	開館準備・閉館準備	62	154	61.1%
12	予約やリクエストの処理	95	102	40.5%
14	おはなし会・読み聞かせ	110	101	40.1%
13	レファレンスサービス	103	91	36.1%
7	目録・分類	91	71	28.2%
20	移動図書館	33	70	27.8%
17	行事	103	69	27.4%
19	相互貸借	94	63	25.0%
8	除籍・廃棄作業	59	50	19.8%
5	資料の選定	117	31	12.3%
15	学校図書館との連携	74	24	9.5%
18	広報活動	79	16	6.3%
16	障害者サービス	86	11	4.4%
21	その他	13	13	5.2%
	なし	26	53	

(情報源) 川原亜希世 [ほか] 著『図書館実習 Q&A』日本図書館協会, 2013, p21の図「説明したり、見学させたりしたもの」および「実施に作業や演習をさせたもの」を基に、(イ)の降順で筆者作成。

3.2 短大の「図書館実習」のシラバス調査

全国レベルでは、大学の規模や専任教員の配置等により「図書館実習」の実施条件に差がある。また、実習学生の年齢が、4年制大学の場合3年次が多いと推測されるのに比べて、短大は2年次と考えられるため、実習内容に違いがある場合もある。

短大の「図書館実習」の実施状況を調べることを目的として、開講状況、単位数、実習期間等について次の調査を行った。

【調査方法】

2016年12月28日～31日、文部科学省の一覧記載³⁾の55短大（公立・私立）について、各短大のウェブサイトに掲載されたカリキュラムまたはシラバスの記述により、調査を行った。

【調査結果】

調査結果の数値情報は、表2にまとめ、その詳細を表3に記した。

① カリキュラム・シラバス等の情報公表状況

カリキュラム・シラバス等の情報公表については、「大学による情報の積極的な提供について（通知）」（文部科学省、平成17年3月14日）に記載されたように、学校教育法（昭和22年法律第26条）等において、教育研究活動と情報の積極的な提供が求められてきた。さらに、改正された学校教育法第113条および学校教育法施行規則等の一部を改正する省令（平成22年文部科学省令第15号）により、公表すべき教育情報として明確化された。このため、調査した55短大では、シラバスの掲載やシラバス検索システムによる情報公表をしている短大がほとんどであった。

だが、中には、簡単な授業科目やカリキュラムの掲載のみと思われる短大も数か所あり、簡略な情報に頼らざるを得ない場合があった。「図書館実習」に関する詳細な情報が入手できないか、または「学科」、「学生の方へ」、「カリキュラム」、「シラバス」、「司書資格」、「情報公開」等のページを探しても、確認調査に時間を要し手間取る場合は、それ以上の調査を断念した。このため、短大によっては掲載されていない内容もあることを断っておく。

さらに、経営母体を同じくする4年制大学と短大が、シラバス検索システムを共有している場合で、資格取得科目として司書養成科目が共通に開講されていたり、同じ箇所に記載されたりしている場合は、4年制大学対象か短大対象かが判別しにくい例もあった。これは対象学年から、2年次の場合は短大カリキュラムとして判断した。

② 司書養成科目の開講数

文部科学省がウェブサイトに公表している「司書養成科目開講大学」の2015年9月1日現在では、短大数は「58大学」と記載されているが、同ページの一覧に掲載の短大の数を数えると55短大であり、誤差があった³⁾。そのうち今回の調査時点ですでに学生の募集を停止し、司書養成科目を開講していない短大が4短大あり、短大が同じ経営母体の4年制大学に吸収統合されて、減少していること

がわかった（表2）。

この結果、2016年12月31日現在、司書養成科目を開講している短大は、公立短大3、私立短大48の計51短大であり、2015年から減少していた。

また、2017年度の募集停止を公表している私立短大も1短大（表3、No.29）あったため、2017年度には、司書科目を開講する短大は50短大になると予想される。

③ 「図書館実習」開講数

司書養成科目を開講している短大のうち、図書館施行規則、乙群（選択科目）の「図書館実習」を開講している短大は51短大中19短大で、開講数の37%であった（表2、表3）。

また、「図書館実習」を含む場合の選択科目の開講数は、2科目5短大、3科目5短大、4科目4短大、5科目2短大、6科目2短大であった。

なお、選択科目は「在学中に2科目履修できるカリキュラム」であればよく、「選択科目である図書館実習を開設しないことは可能」とされている²⁶⁾。このため、選択科目7科目のうち最低2科目が司書資格取得に必要なことから、今回の調査では「図書館実習」を含む2～3科目の開講を行う短大が多いことがわかった。「図書館実習」を開講する短大では、2科目以上の組み合わせとしては「図書・図書館史」を選択科目とする例が一番多かった。さらに、選択科目数で一番多い例では6科目の開講を行っている短大もあった。

④ 「図書館実習」の単位数と期間

「図書館実習」の単位数は1単位、その場合の実習期間は1週間程度（または1週間相当の時間数）とする短大が、12件と一番多かった。2単位で実施している短大は3件あり、そのうち期間が明記されている2短大は2週間であった。このうち、1短大では、1単位は前期に実習前の事前学習を中心に行い、後期1単位で事後学習を中心として、計2単位（実習期間2週間）で実務の修得・定着を図っていた。

⑤ 履修条件

「図書館実習」の履修条件の内容としては、（面接のうえ）一年次成績優秀者等の成績制限（2件）、実習先を学生自ら開拓（1件）、事前指導2回の出席の義務（1件）、1年前後期の司書課程の必須科目の履修終了（1件）が挙げられる。なお、「図書館実習を科目として開講する以上、実習先の確保は大学が主体となっていくべき」と文部科学省が回答している²⁶⁾。

⑥ 担当教員

19短大の多くは、「図書館実習」を短大の専任教員が担当していると考えられたが、中には短大と経営母体と同じ大学の兼任教員が担当をしている例もあった。

⑦ その他

短大と同じ経営母体の4年制大学では、「図書館実習」を行っているが、短大では行っていない例もあった。

表2 「図書館実習」開講数（短大）

	(ア) 「司書養成科目開講大学一覧」に記載の短大の実数	(イ) 司書科目を開講中の短大数	(ウ) 「図書館実習」開講の短大数	(ウ/イ)「図書館実習」開講の割合
短期大学（部）				
公立短期大学	3	3	0	0%
私立短期大学	52	48	19	40%
計	55	51	19	37%

(注)

(ア)：情報源は、文部科学省「司書養成科目開講大学一覧」(平成27年9月1日現在)。「212大学」の一覧内の各大学の数。開講の4年制大学数は国立9、公立4、私立143の156。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/04040502.htm (参照2016-12-31)

(イ) および (ウ)：各大学ウェブサイトに掲載された情報(カリキュラムまたはシラバス)による(調査日：2016年12月31日)。

(ウ)：「図書館実習」の開講の短大数は、「図書館実習」の科目名で検索し、「図書館実習」以外の科目名で実施されていることが分かった1件のみ、「図書館実習」の開講数として加えた。

表3 「図書館実習」開講状況（短大）

No	短大名	(ア) 情報公開 (有○,無×)	(イ) 「図書館実習」開講 (有◎,無×)	(ウ) 「図書館実習」の 単位数	(エ) 「図書館実習」の 期間	(オ) 掲載サイトの名称(カリキュラム・シラバス等)	備考
<公立短期大学>							
1	山形県立米沢女子短期大学	○	×	-	-	山形県立米沢女子短期大学 > 司書に関する科目(平成27年度入学生用)・司書に関する科目(平成28年度入学生用)	
2	長野県短期大学	○	×	-	-	長野県短期大学 > 科目等履修制度 > 開講科目一覧	選択科目3
3	鳥根県立大学短期大学部	○	×	-	-	鳥根県立大学短期大学部 > 平成28年度入学生 > 授業計画書-SYLLABUS- :【総合文化学科】“開講科目一覧 総合文化学科(日本語文化系)”	選択科目2
	計	3	0				

短期大学における「図書館実習」の現状

＜私立短期大学＞						
1	帯広大谷短期大学	○	×	-	-	帯広大谷短期大学 > 地域教養学科 > シラバス
2	釧路短期大学	○	◎	2	2週間	釧路短期大学 > 生活科学科 生活科学専攻カリキュラム 選択科目2：図書館実習(2)、図書・図書館史(2)
3	國學院大學北海道短期大学部	○	×	-	-	國學院大學北海道短期大学部 > 平成28年度(2016年度) 國學院大學北海道短期大学部 講義要項一覧 選択科目2
4	札幌大学女子短期大学部	○	◎	1	1週間程度(実働40時間以上)	札幌大学/札幌大学女子短期大学部 > 学部学科または科目群から検索する 目録法・分類法(演習を含む)の単位修得後(2年目以降)に履修。選択科目3：図書館実習(1)、図書館情報資源特論(1)、図書・図書館史(1)
5	北海道武蔵女子短期大学	○	◎	*	*	北海道武蔵女子短期大学 > 教養学科 付設課程
6	青森中央短期大学	○	×	-	-	青森中央短期大学 > カリキュラム：幼児保育学科
7	聖和学園短期大学	○	×	-	-	聖和学園短期大学 > キャリア開発総合学科 カリキュラム一覧
8	東北文教大学短期大学部	○	×	-	-	東北文教大学短期大学部 > 総合文化学科 取得できる資格 図書館司書
9	郡山女子大学短期大学部	○	×	-	-	郡山女子大学短期大学部 > 2016年度 文化学科
10	桜の聖母短期大学	○	×	-	-	桜の聖母短期大学 > キャリア教養学科
11	茨城女子短期大学	○	×	-	-	茨城女子短期大学 > 教育課程表
12	つくば国際短期大学	○	×	-	-	つくば国際短期大学 > 学科構成・取得資格
13	常磐短期大学	○	◎	1	1~2週間	常磐大学・常磐短期大学 > シラバス講義科目検索 [対象：キャリア教養学科] 選択科目2：図書館実習(1)、図書・図書館史(1)
14	國學院大學栃木短期大学	○	×	-	-	國學院大學栃木短期大学 > 平成28年度 シラバス [資格科目]

短期大学における「図書館実習」の現状

15	秋草学園短期大学	○	×	-	-	秋草学園短期大学 > シラバス:文化表現学科図書館司書課程	
16	十文字学園女子大学短期大学	[-]	×	-	-	※平成27年度募集停止、届出済(「平成25年度 短期大学部 司書課程 シラバス」等の過去情報有り)	
17	聖徳大学短期大学部	○	×	-	-	聖徳大学・聖徳大学短期大学 > 在学生の方	
18	千葉経済大学短期大学部	○	◎	2	2週間	千葉経済大学短期大学部 > 「2016年度授業要項(シラバス)」ビジネスライフ学科	「受講に際しては事前面接の上、一年次成績優秀者のみを选考」。選択科目6:図書館基礎特論(1)、図書館サービス特論(1)、図書館情報資源特論(1)、図書・図書館史(1)、図書館施設論(1)、図書館実習(2)
19	青山学院女子短期大学	○	×	-	-	青山学院女子短期大学 > シラバス(当該年度開講科目)	
20	亜細亜大学短期大学部	-	-	-	-	※平成28年度から募集停止(2015年04月01日 00時00分)。亜細亜大学・亜細亜大学短期大学部 > 亜細亜大学短期大学部の募集停止について	
21	大妻女子大学短期大学部	○	×	-	-	大妻女子大学短期大学部 > 2016Syllabus	
22	実践女子短期大学	○	×	-	-	実践女子短期大学 > 図書館学課程(2016年4月1日現在)	四大では実習あり
23	昭和音楽大学短期大学部	○	◎	*	*	昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部 > 資格課程	四大・短大ともに同じ科目リスト。選択科目4:図書館実習、図書館サービス特論、図書・図書館史、音楽図書館特論
24	東京農業大学短期大学部	○	◎	1	[9日] (推定)	東京農業大学・東京農業大学短期大学部 > シラバス(学術情報課程) ※短大は平成29年度より募集停止	四大も司書科目開講。選択科目5:図書館実習(1)、図書館サービス特論(1)、図書館情報資源特論(1)、図書館総合演習(1)、図書館基礎特論(1)
25	上田女子短期大学	○	◎	1	30~35時間	上田女子短期大学 > 総合文化学科 > シラバス	実習先を学生自ら開拓。事前指導2回の出席要。選択科目6:図書・図書館史(1)、図書館サービス特論(1)、図書館情報資源特論(1)、図書館施設論(1)、図書館総合演習(1)、図書館実習(1)
26	信州豊南短期大学	○	◎	1	5日	信州豊南短期大学 > 修学上の情報等:シラバス(授業計画):言語コミュニケーション学科 > 図書館司書養成課程	「実習を受けるものは、1年前期・後期の図書館司書課程の必須科目の履修を終了している者」。選択科目4:図書館実習(1)、図書館サービス特論(1)、図書館情報資源特論(1)、図書館総合演習(1)

短期大学における「図書館実習」の現状

27	松本大学松商短期大学 [部]	○	×	-	-	松商短期大学部 > 商学科、経営情報学科 [共通]	大学・短期大学部>教育・研究>シラバス閲覧 (全学部)>
28	富山短期大学	○	×	-	-	富山短期大学 > 経営情報学科>カリキュラム	科目目録はあるが、シラバスは見当たらない。選択科目2
29	北陸学院大学短期大学部	○	◎	1	原則として7日間。実習館の指定がある場合はその日程。	学校法人北陸学院 > 情報公開 > 2016年度教授要目 (短期大学部) コミュニティ文化学科 (他学科の履修可)	『北陸学院大学短期大学部図書館実習実施規程』における実習参加資格を有するものに限る」。選択科目2：図書・図書館史 (1)、図書館実習 (1)
30	中部学院大学短期大学部	○	×	-	-	中部学院大学 大学院/大学/短期大学 ホーム > 学科 (短期大学部) > 幼児教育学科 > カリキュラム	※社会福祉学科>カリキュラムも同様。選択科目2「司書資格必修」
31	愛知学泉短期大学	○	◎	*	*	愛知学泉短大 受験生サイト 学科紹介 > 生活デザイン総合学科:図書館フィールド	選択科目2：図書館総合演習、図書館実習
32	愛知大学短期大学部	○	×	-	-	愛知大学短期大学部ライフデザイン総合学科 > 学び>カリキュラム> 2016年度開講科目	「愛知大学との単位互換科目10単位まで自由選択として設定」
33	滋賀文教短期大学	○	×	-	-	ホーム > シラバス > 1年次開講科目・司書の資格に関する科目 2年次開講科目・(同上) (国文科・子ども学科)	選択科目2
34	大谷大学短期大学部	○	×	-	-	大谷大学 短期大学部 > 図書館学課程	選択科目4
35	京都女子大学短期大学部	-	-	-	-	※2010年に短期大学部の学生募集を停止。 学校法人京都女子学園 > 教育理念 > 京女の歴史 > 略年表	
36	華頂短期大学	○	×	-	-	華頂短期大学 > 学科・コース > 歴史学科 > カリキュラム :「免許・資格諸課程科目」	選択科目2「司書資格必修」※大学コンソーシアム京都単位互換制度
37	大阪城南女子短期大学	○	◎	1	40時間以上	大阪城南女子短期大学 > 大学紹介 > 教育情報の公開 > シラバス	「原則として、1年次の図書館科目の評価がB(良)以上の者」。選択科目5：図書館基礎特論 (2)、図書館サービス特論 (2)、図書館情報資源特論 (2)、図書・図書館史 (2)、図書館実習 (1)

短期大学における「図書館実習」の現状

38	大阪成蹊短期大学	○	×	-	-	大阪成蹊短期大学 > 学部紹介 > シラバス: 司書・司書教諭科目	選択科目3: 図書館情報資源特論(1)、図書・図書館史(1)、図書館基礎特論(1)
39	関西外国語大学短期大学部	○	×	-	-	関西外国語大学 > 学部/大学院 > 短期大学部 > 教育課程: カリキュラム一覧(英米語学科)	選択科目3: 図書館基礎特論、図書館情報資源特論、図書・図書館史
40	鳥取短期大学	○	×	-	-	鳥取短期大学 > 訪問者別メニュー: 在学生の方へ: シラバス(司書科目)	選択科目2
41	岡山短期大学	○	×	-	-	岡山学院・岡山短期大学 > > 岡山短期大学 > > シラバス: 図書館司書科目(大学・短大共通)	
42	就実短期大学	○	×	-	-	就実大学・就実短期大学 ホーム > キャンパスライフ > 修学支援 > シラバス	選択科目5
43	徳島文理大学短期大学部	○	×	-	-	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 Webシラバスシステム > 言語コミュニケーション学科	選択科目3
44	九州大谷短期大学	○	◎	[1]	10日間	九州大谷短期大学 > 表現学科 情報司書フィールド	
45	福岡女子短期大学	○	◎	2	*	福岡女子短期大学 > 文化コミュニケーション学科 > 専門教育科目	選択科目4: 図書館実習(前期1: 事前)(後期1: 事後)、図書館サービス特論(1)、図書館情報資源特論(1)、図書・図書館史(1)
46	佐賀女子短期大学	○	◎	1	*	佐賀女子短期大学 > 学科・コース > 地域みらい学科: グローバル共生コース(ビジネス英語・韓国語・情報司書)カリキュラム	選択科目3: 図書館基礎特論(1)、図書館サービス特論(1)、図書館実習(1)
47	九州龍谷短期大学	○	◎	*	*	九州龍谷短期大学 > 学科案内 > 人間コミュニケーション学科 > 司書・情報コース	選択科目3: 図書・図書館史、図書館施設論、図書館実習
48	別府大学短期大学部	○	×	-	-	別府大学短期大学部 > 小学校・幼稚園コース ※(別府大学 > 大学・大学院 > 免許・資格課程 > 司書課程)	短大の司書科目の説明は別府大学のページにもあり。(図書館実習なし) 選択科目4

短期大学における「図書館実習」の現状

49	宮崎学園短期大学	○	◎	1	*	現代ビジネス科 ビジネスコース	選択科目3：図書・図書館史(1)、図書館情報資源特論(1)、図書館実習(1)
50	鹿児島国際大学短期大学部	-	-	-	-	※2014年3月に鹿児島国際大学に統合。「鹿児島国際大学 > 短大部の歴史に幕、その魅力大学に」2011年8月30日、本学「情報文化学科」の学生募集停止について	
51	鹿児島純心女子短期大学	○	◎	1	5日間	鹿児島純心女子短期大学 > 在学生・教職員の方 > シラバス検索(生活学専攻)	図書館実習は「情報センター特論」に該当。選択科目2：情報センターサービス特論(1)
52	鹿児島女子短期大学	○	◎	1	*	鹿児島女子短期大学 > 情報公開 > 学科紹介 > 教養学科 > 実習・研修	選択科目3：図書館サービス特論(1)、図書館情報資源特論(1)、図書館実習(1)
	計	48	19				

(注)・一覧は文部科学省「司書養成科目開講大学一覧」(平成27年9月1日現在)212大学の一覧内の各大学名に基づき掲載。

・No.27の短大名は文部科学省の一覧では「松本大学松商短期大学」、調査時「松本大学松商短期大学部」。

・(ア)：司書養成科目に関するカリキュラムまたはシラバス等の情報公開の有無をウェブサイトから調査(調査日：2016年12月28日～31日)。

・(ウ) および (エ)：該当する情報が見当たらない場合“*”。

・(オ)：参照URLは付表<参照URL一覧>に記載。

・「備考」の選択科目の情報は、西日本を中心に調査。確認調査に時間を要する場合等は調査を断念している。また、「図書館実習」を実施している場合のみ、選択科目名を記載し、()内に単位数を記載した。

なお、「図書館法施行規則の一部を改正する省令」による乙群(2科目選択)は、図書館基礎特論、図書館サービス特論、図書館情報資源特論、図書・図書館史、図書館施設論、図書館総合演習、図書館実習(以上、各1単位)。

【考察】

以上、カリキュラムまたはシラバス等の調査により、短大の「図書館実習」の開講状況について概要を把握した。これを基に考察する。

① 司書養成科目の開講

18歳人口の減少と女子の4年制大学への進学増加等により、短大が4年制大学へ移行していることは、高等教育機関ではよく知られている²⁷⁾。本調査で、司書養成科目の開講数(4年制大学・短大)が減少し、短大の開講数も減少傾向にあることがわかった。これは、まず、高等教育機関での専門教育の高度化、日本の経済や就職環境の変化、多様な職種の出現(図書館より有利な雇用条件)等が挙げられる。次に直接的には、地方公共団体の財政削減により、公立図書館の専任司書の減少と非専任司書の増加により、専任司書として就職することが容易ではない状況による司書希望者の減少と関係していると考えられる。

② 「図書館実習」の開講

「図書館実習」の開講については、短大での選択科目の開講が、最低の2科目に留まる短大が多く存在していることから、在学中での学生の最終的な司書資格取得の可能性が少ないのではないかと

と考えられた。「図書館実習」は受入図書館との協議により成り立つことを考えると、卒業年度である2年次に履修する「図書館実習」が成立しない場合は、他の科目の選択肢がないため、たとえ優秀な学生であっても資格を得て卒業することはできない。確実にその地域の公立図書館で実習の受入れがあるという前提にもよるが、それが無い地域では、「図書館実習」を含めて3科目以上の開講が必要であると考えられる。

この選択科目の開講数は、学生が所属する学科または分野（例えば、フィールド、エリアの名称）として司書課程を持っている場合と、付帯する資格取得講座として設置している場合とでは異なる。例えば、本学では前者であり、本学は、「図書館実習」、「図書・図書館史」を含む5科目を開講している。国文科の歴史を持つため、公立図書館で求められる文献や文学の知識を学ぶ内容を各特論により充実させている。最近では、学問分野をアニメで表現するヤングアダルトのライトノベル（通称：ラノベ）文化、LINEやツイッターに代表されるように、長文よりも短文や親しみやすいカジュアルな言葉で、本を読む学生も多くなった。図書館が扱う資料・情報は、日々多様化し高度化している。そのため、多岐にわたる図書館サービスの基本となる資料・情報の知識、技術等について、各短大で多くの選択科目を準備して補完していくことが望ましい。ただ、学生の教育のために、何の科目をどの程度、選択必修とするかについては、各短大の教育方針、置かれている環境、他の科目との関係性により異なり、裁量に任されている。

「図書館実習」の単位数は、1単位が多かったが、実習の事前・事後の実務を、前・後期の各1単位ずつ計2単位で開講している短大のシラバスは参考になる。1年間にわたり、十分に実務を学ぶ時間がとられていた。この実現には、他の教科カリキュラムや就職活動との関係、図書館・図書館員の協力や、担当教員の負担が伴うため、全体の条件整備が必要と考えられる。

③履修制限

「図書館実習」の履修に制限を設けず、全員が実習できることが望ましいが、多忙な受入図書館で専任司書が少ない中、真摯な態度で指導に当たられる状況を目の当たりにすると、当該短大として、一定の質が保証できる学生を実習生として送るべきと考える。図書館員の仕事を一度は経験してみたいという学生の熱意を第一としても、学生の資質を見極めたいのであれば、当該短大の評価を落としかねない。最近、一般社会でも学生の質低下が問題となるが、学生の資質によって生じる問題（例えば、履修登録後の学生の実習への認識の甘さや、受入図書館の多大な気づかいや負担）を回避するために、シラバスにおいて、事前面接や1年次の成績等によることを明記すべきと考える。実際、本学でも他大学の例を参考にし、成績制限を行った。

短大のなかには、シラバスには明記されていないが、何らかの履修条件を設けて学生に伝えられている場合もあると推測する。

4. 本学の「図書館実習」

4.1 経緯と方針等

4.1.1 経緯

本学の図書館司書課程は、2006年度、改組により国文科から現代生活学科に移った。これに伴い、2006（平成18）年度～2011（平成23）年度の入学生まで、現代生活学科では、科目「企業実習」（1年次）の中で、図書館を企業に類似するひとつの組織として捉え、インターンシップの一種としての「図書館実習」を行っていた。

2012年度入学生の履修からは、科目「企業・学外・図書館実習」の一つとして「図書館実習」を明記した。また、2014年度入学生からは、「図書館実習」（2年次）を独立させて明記し、現在は、同学科のライフデザインコースの図書館司書エリアで履修できるカリキュラムとなっている。

2016年度のシラバスには、「授業概要」、「学生の到達目標」および「準備学習／学生へのメッセージ」等の項目があり、「図書館実習」（2年次、1単位）について、次のように記載している。

・[授業概要]

受講生の住所地または出身地の希望する図書館と調整ののち、図書館側の受入れが可能な場合、夏季に「図書館実習」が実現する。事前に図書館実習事前調査票を作成する。実習期間の内容は、概ね、図書館システム操作、カウンター業務、配架整理業務等であり、実習図書館の指示に従う。終了後、図書館実習報告書を提出する。

・[学生の到達目標]

実習先の図書館についての十分な事前調査ができる。実習図書館の規則や指示に従って、図書館業務を理解し、遂行し、実習後の報告書作成ができる。

・[準備学習／学生へのメッセージ]

履修登録可能者は、原則として、1年次の図書館科目の評価がB（良）以上の者とします。所定の期間内に実習図書館についての十分な事前調査を行うことが必要です。実習への心構えとして、図書館の基礎知識に加え、実習受入館への感謝や熱意等が重要です。

4.1.2 実習の条件

「図書館実習」は、本学では選択科目（1単位）であるが、実習に行けるかどうかについては、従来は、希望する学生の能力を考慮するものの、学生の实習希望に基づき、その熱意を優先していた。実習に行くことにより、学内の甘えた雰囲気とは一変して学外では社会人らしい成長を見せることがある。このため、その見込みがある学生なら、学生を信用し期待を込めるという判断であった。しかし、その半ば曖昧な判断によって、学生自身の自信過剰的な思い上がりや甘えが生じたり、多忙な実習館に心配や負担をかけたことがあった。

2016年度からは、実習生受け入れに協力的な実習館への誠意として、一定の学力を保障することを優先とした。成績3段階（優・良・可）のうち、1年次の司書養成科目の成績が、原則として概ね「良」以上の希望者を対象とすることとし、シラバスにも明記した。司書に懂れて司書養成科目を受講する学生にも、1年次前期から真剣に学修を積み重ねる必要があり、一定の成績以上が必要であることをたびたび伝え、2年次夏期の実習に臨んでくれることを期待した。

このように、資格取得としての選択科目は、他の資格必修科目で単位取得が可能であることから、2016年度の「図書館実習」からは、一定の質を保つため、選考のうえで実施している。

2014～2016年度の3年間の「図書館実習」(対象：2年生)では、実習生計13名のうち、市町村立図書館で7名、都道府県立図書館で6名が実習を行った(表4)。川原らの2007年調査(4年制大学および短大)では、科目外や選択科目の場合の参加する学生は、1大学当たり4.0～6.5名であることと比較すると、本学が成績による制限を設けなかった場合は、ほぼ平均的であったと言える²⁰⁾。

表4 各年度の実習図書館内訳

年度	(名)		
	市町村立図書館	都道府県立図書館	計
2014(平成26)	1	3	4
2015(平成27)	4	2	6
2016(平成28)	2	1	3
計	7	6	13

4.1.3 実習受け入れの依頼

4月に、対象の学生に実習希望地等の実習希望調査を行う。ただ、「図書館実習」は、受け入れる公立図書館の協力が得られないと実現しない。打診を行った結果、実習が実現に至らない理由は、指導する担当者がいない、実習の受け入れ実績がない、日程が折り合わない(指定される日が本学の開講日と重なる、1館の日程が短すぎる)が挙げられる。

日程の折り合いをつけるため、図書館の都合に合わせ、夏期休暇中、断続的に実習時間(原則として40時間以上)を確保した場合もある。

事前の受け入れ打診により、調整ができた場合は、正式の依頼をし、覚書を交わした。

定期的の実習生の募集がある図書館では、その実習館の計画に従った。

以下、「図書館実習」の指導者側の一連の対応等については、『図書館実習Q&A』²⁰⁾の書式および内容を参考にした。

4.1.4 事前調査

学生には、第一希望の実習館に受け入れされることを想定して、実習館についての事前調査票を

作成させた。『日本の図書館：統計と名簿』²⁸⁾、図書館や自治体のウェブサイト、紙媒体資料のほか、図書館利用等により、沿革・概要、方針、地域の特徴、近隣図書館との比較、役割・位置づけ、広報サービス等の調査をさせた。

学生の事前調査票の添削を行い、再提出を求めたりすると、実習前のこの調査が重要であることが、学生にはわかりづらいようで怪訝な様子であるが、実際にこの事前調査が不足している場合、実習後の反省点として挙げられることが多い。

4.1.5 都道府県立図書館と市町村立図書館

都道府県立図書館と市町村立図書館という設置者別や、中央館か分館かの規模等により、図書館の機能、サービス内容、業務の多岐性等が異なる。図書館実習Q&Aグループの2010年の調査は、設置者別の状況が公開されていないことから、実習前の指導の際に、都道府県立図書館や中央館に行く学生向けには、今回の調査を踏まえて情報提供や指導を行うことが必要と考えられた。経験的に、都道府県立図書館の方が、実習内容においては説明または、座学が多くなる傾向があると考えたからである。

4.2 実習館での「図書館実習」の内容

現場の「図書館実習」で、どのような業務を経験したか、またその業務別の所要時間はどの程度か等の実習内容について、最近の実習生の「図書館実習日誌」の分析を行った。すでに、全国レベルでは、実習館からの回答により実習内容の調査がされているが(表1)、これは実習内容の種類中、何の業務をさせる図書館が多いかを示すものである。これに比較して、本調査は、実習生側の記述に基づくが、各実習内容の所要時間により、何の業務をより多く学ぶのか(学んだか)の時間の長さ(比重)を知ることと、都道府県立図書館と市町村立図書館とを比較できることが特徴である。

また、教員側が、司書養成科目全体の中で、即戦力となる内容や現場に即した内容を盛り込んだり、事前指導の参考にしたりするため、また、一方の実習生自身が、事前学習で予備知識を収集しておくことにより、十分な準備を行い、実習効果を高めるために用いる。

【方法】

実習（業務）内容およびその所要時間は、実習生の「図書館実習日誌」により、実習内容別に、実習の所要時間を集計し、各実習時間を割合で表した。また、学生によって日誌の記載に精粗があるため、丁寧に記載がされている日誌から、異なる地方公共団体の市立図書館3名分と、府県立図書館の4名分（2館2名ずつ）の計7名の日誌を情報源とした。

また、実習日誌の感想および反省や、図書館担当者のコメントも参照することにより、その具体的な業務内容をも参考にした。

【結果】

実習内容別の実習時間数の集計により、どの内容に時間を割いて実習を行ったかの割合は、次の通りであった（表5）。

市立図書館の実習時間の半分は、「資料排架や書架整理」(30.6%)と、「カウンター業務」(20.3%)の2つで占められていた。ほとんどの図書館では、各実習生に一人の図書館員が付き添うことが多いが、図書館によっては、実習担当者が多忙のため、一日の殆どを書架整理にあたるようなケースや、付き添わないでカウンターを任せられていたケースもあった。市立図書館のカウンターでは、施設設備上、利用者との距離が近く（図1）、カウンターや排架中に簡単なレファレンスを行うことが多いが、レファレンスサービスの数値として表れていない。

「おはなし会・読み聞かせ」(図2)は、女子短大の学生が実習中に必ずとっていいほど経験しており、実習生が実演者となって緊張する場面であるため、話題に出てきやすいが、実際はその事前の本選びや練習を含めても、時間的に長くはない結果であった。図書館によっては、完全にボランティアが担当することになっており、その見学の機会もない場合もあった。

3番目に多いのは、「行事」(13.4%)であった。夏休みの期間中の行事と実習が重なり、地域の「行事」関係の実習が多かった。例えば、図書館外で区役所等が主催するイベントの一環で図書館も出展したり読み聞かせをしたり、館内で図書展示の企画をしたりなどがあげられる（図3）。

次に、実習時間が長かったのは、図書や雑誌の透明ラミネートフィルムを貼付する等の「装備」であった。

府県立図書館の実習でも、「資料排架や書架整理」(19.3%)や「カウンター業務」(14.1%)は多いものの、全体の实習時間の1/3程度であり、市立図書館に比較して、時間の割合は低い。また、市立図書館と比較して多いのは、この実習内容のカテゴリーに入れにくい「その他」であった。「その他」の内容は、オリエンテーション、館内案内、各部署の業務説明、報告会、反省会等である。市立図書館では、まとまった業務説明等としては、館内案内、朝礼、見計らい見学等が記録されているが、それ以外は時間を特記するまでに至らず、時間は短い。

表5 実習内容別の実習時間の割合

実習内容	本学学生の実習時間の割合 注1)		(参考) 公立図書館252館中の実習内容の割合 注2)	
	市立図書館 (N=3)	府県立図書館 (N=4)	実際に作業・演習をさせたもの	説明・見学または実際の作業・演習をさせたもの
資料排架や書架整理	30.6%	19.3%	75.8%	99.2%
カウンター業務	20.3%	14.1%	74.6%	96.4%
受入・装備	9.9%	5.1%	65.1%	93.3%
開館準備・閉館準備	3.3%	1.3%	61.1%	85.7%
予約やリクエストの処理	3.8%	1.0%	40.5%	78.2%
おはなし会・読み聞かせ	3.1%	8.2%	40.1%	83.7%
レファレンスサービス	0.0%	11.7%	36.1%	77.0%
目録・分類	1.0%	0.0%	28.2%	64.3%
移動図書館	2.3%	0.0%	27.8%	40.9%
行事	13.4%	1.1%	27.4%	68.3%
相互貸借	2.8%	9.6%	25.0%	62.3%
除籍・廃棄作業	0.0%	0.0%	19.8%	43.3%
資料の選定	1.1%	0.0%	12.3%	58.7%
学校図書館との連携	0.0%	1.6%	9.5%	38.9%
広報活動	0.0%	5.9%	6.3%	37.7%
障害者サービス	0.0%	1.3%	4.4%	38.5%
その他	8.5%	19.7%	5.2%	10.3%
計	100.0%	100.0%		

(注)

- 1) 実習内容の分類は、川原亜希世 [ほか] 著『図書館実習Q&A』日本図書館協会、2013、p21の図「説明したり、見学させたりしたもの」および「実際に作業や演習をさせたもの」を基にし、「実際に作業や演習をさせたもの」の降順で、筆者作成。実習生の実習日誌により、時間ごとの実習内容を分類・集計後、実習内容別の時間の割合を示した。「その他」には、オリエンテーション、館内案内、各部署の業務説明、報告会、反省会等を含む。ただし、日誌記入や休憩を除く。
- 2) 注1)に記載の川原らにより実施された2010年全国の公立図書館対象の調査(有効回答数252、複数回答可)から、回答を実習内容別に割合で示した。割合は、「当該実習内容の回答数/252」で記載。

【考察】

過去3年間の全ての日誌分析を行ったほうがよかったが、時間の関係等により約半数の日誌分析を行った。今回の母数は少ないため、多少偏りがある可能性があるものの、おおよその傾向は掴めた。

本調査前、市立図書館と府県立図書館とは、公立図書館として果たす役割が異なり、業務内容が異なるため、実習内容の割合が異なると考えられた。予想どおり、業務量やその所要時間とリンク

するかのように実習時間の長さにも表れている。市立図書館では、「資料排架や書架整理」、「装備」および修理は、定期的にボランティアに依頼する図書館もあり、業務量が実習時間数の長さとして表れていた。府県立図書館と市立図書館の両方を体験した実習生の日誌には、毎朝、他館から十数箱の大量の本が届けられているのに驚いたという記載もあった。

ともかくも、予想以上に長い時間が「排架・書架整理」作業として実習に組み込まれていることがわかった。分類や書架の配置がよく分かっていない場合は、図書館の排架作業は、要領を得ず時間を費やす。また、独自分類を行っている書庫資料や郷土資料等、配置場所が異なる資料があり、一筋縄ではいかない知識が必要であることも経験した様子である。

即戦力が要求される市立図書館では、「実習生」の名札等を付けていても、図書館員と思われるため、初日は特に右往左往することが多いようだが、日を追うにつれて慣れてきている。今後の事前指導では、論より証拠で、過去の手書きの実習日誌を見せたほうが、疑似体験でき、身が引き締まるのではないかと考える（ただし、個人情報非公開）。

府県立図書館では、同時に5人前後の実習生を受け入れていることや、市立図書館とは規模が大きく異なるため、多岐にわたる部署の説明が必要である。このため、部署ごとに資料の特徴やその関連での業務説明が行われている。説明時間がどうしても長くなることが日誌内容からもわかる。しかし、利用しやすい身近な市立図書館とは異なり、あまり見る機会がない広い地下書庫の業務、多様な資料やデータベースの取り扱い、利用者別（身体障害者等）のきめ細かい対応等があり、説明・見学だけでも、実習に参加できたことに感動した様子である。

2010年に全国の公立図書館が実際に作業・演習を行わせた業務内容として、「資料排架や書架整理」、「カウンター業務」が70%以上の館で行われていた²⁵⁾が、本学の実習図書館（市立・府県立）でも、実習時間の長さの点で、長時間実習している結果となった。



図1 実習風景1：貸出・返却カウンター
(東大阪市立四条図書館、2016年8月)



図2 実習風景2：「おはなし会」で読み聞かせ
(大阪市立住之江図書館、2015年8月)

●イベントの例：図書館実習先で学生の企画実現

平成27年夏、図書館司書課程で受講中の2年生が、各地へ「図書館実習」に行った。このうち、実習館の一つである大阪市立住之江図書館では、期間中に実習生が企画した図書展示案が認められ、

これが実現した。



図3 図書館実習生らが選んだ図書の展示
(大阪市立住之江図書館、2015年9月)

- ・展示タイトル：「図書館実習生たちがえらんだ本」展
- ・展示期間：2015年9月18日～9月29日
- ・場所：大阪市立住之江図書館

実習生を含む8人の女子学生がお気に入りの本を紹介した。「この本が面白かったら、こちらもおススメ!」と、関係する本も薦めた。実習中に、実習生が他の司書課程の学生に声をかけ、LINEで集まった図書リストをもとに選書された。そのスピード感、機動力や連帯感に、「さすがIT時代の学生らしい、感動した」と、担当の図書館員は話された。展示配布用のリーフレットも作成された。新聞社も興味を持たれたとのことであった。

選書が、実習生個人の好みに偏ることなく選ばれた点がさらに評価されたと考える。学校教員の実習も行われている中、並行して本学学生の実習もされたが、短期間に企画が稼働した。図書館は、住民でもある10代の女子学生の声を生かし、学生とのコラボレーションを図った利用者サービスを展開された。その柔軟性に感謝したい。

4.3 実習館による評価

実習終了後、実習館の担当者による「実習評価表」の作成を依頼している。個々の実習生や、各館の状況および担当者の評価にも左右されるが、過去3年間の本学学生に対する評価をまとめた(表6)。

実習生への個別の評価尺度が「優、良、可、不可」となっている評価について、優を3、良を2、可を1として、3段階の評価点数に数値化した。この評価によると、市町村立図書館、都道府県立図書館ともに、「実習態度(真面目に勤めたか)」は全員申し分なく3(優)であったが、逆に「判断力(判断して実行できたか)」の評価平均は、他の評価項目に比べ一番低いことが分かった。項目別評価とは別の「総合評価」では、平均2.8と優に近い評価を得ている。

設置者別では、市町村立図書館では、「実行力(行動できたか)」や「理解力(指示を理解できたか)」は概ね評価がよいが、「判断力(判断して実行できたか)」の評価は優と良の間値(2.4)の評価であり、中央値においても2(良)であった。優には達しない学生が多く、若干劣っている点があることがわかった。

また、都道府県立図書館では、「実習態度」のほか、「積極性(進んで業務をしたか)」の評価がともに3(優)であった。しかし、「言葉遣い・挨拶(受け答えができたか)」、「実行力」および「判

断力」が優と良の中間値（2.5）であり、優とは言えない何らかの問題があることがわかった。

同時期に他大学の実習生がいたかどうか、特に頻繁に実習生を受け入れている館では比較対象があったかどうかによっても評価が変わる。そもそも、不慣れな場所で実習生の立場で臨機応変に実行・判断するには、蓄積した知識や経験が必要となるため、19歳から20歳では、その能力を求めるのは難しい点がある。しかしながら、言葉遣いや挨拶については、日常生活での振る舞いなどにおいて、改善の余地があると考えられる。

実習館についての事前学習をどれだけ丁寧に、綿密に行ったかで、図書館に関する情報量の違いから、言動にも良い効果として表れる。この点が不足していた可能性がある。特に都道府県立図書館は、住所地から離れていることが多く、遠方の出身者の場合や、出身地であっても住所地からの交通の便により選択した場合は、交通費や時間の負担が大きい。このため、図書館に通い詰めて、利用者として知り尽くすことが難しいという不利な現実がある。

4.4 「図書館実習」報告・意見交換会（聞き取り）

実習生には、実習後、「図書館実習日誌」および「図書館実習報告書」の提出をさせている。

また、教員および実習生間で、次のように情報共有等を図るため、実習の報告・意見交換会を行った。

表6 図書館の設置者別評価

（単位：点）

評価項目	市町村立図書館 (N=7)		都道府県立図書館 (N=6)		平均	中央値
	平均	中央値	平均	中央値		
	項目別評価					
1 実習状況						
実習態度（真面目に勤めたか）[a]	3.0	3	3.0	3	3.0	3
積極性（進んで業務をしたか）[b]	2.6	3	3.0	3	2.8	3
言葉遣い・挨拶（受け答えができたか）[c]	2.7	3	2.5	3	2.6	3
協調性（担当者との関係は）[d]	2.7	3	2.8	3	2.8	3
2 仕事への取り組み						
実行力（行動できたか）[e]	2.9	3	2.5	3	2.7	3
理解力（指示を理解できたか）[f]	2.9	3	2.7	3	2.8	3
判断力（判断して実行できたか）[g]	2.4	2	2.5	3	2.5	3
責任感（やりぬくことができたか）[h]	2.7	3	2.8	3	2.8	3
平均 [a-h]	2.7		2.7		2.7	
総合評価	2.9		2.8		2.8	

（注）・「項目別評価」および「総合評価」は、ともに平成26年度～28年度の各図書館実習館の担当者による評価「実習評価表」による。

・評価点数は、優、良、可、不可の評価をもとに、優は3、良は2、可は1の3段階評価に点数化したもの。

日 時：2016年9月26日（月）16:30～18:00

出席者：実習生3名（2年生）

※実習館：市立図書館（大阪市内・大阪府外）、都道府県立図書館

目 的：実習生の情報共有・振り返りおよび今後の実習の事前学習・事前指導に生かすため

内 容：報告・意見交換、自己評価、実習先の実習評価表の配付、アンケートの記入

以下は、発言者である実習生の報告・意見を、聞き取り側が大意を曲げない程度に、語彙等の表現や言い回しについて編集し、内容別に分類したものである。

①受入・目録・装備等について

- ・見計らい図書の見学は初めてだった。目録規則がとても大事と言われたが、図書のほとんどは目録装備済みの図書が納入されていた<市立>。
- ・修理、透明フィルム貼りの装備、子どもが乱暴に扱った紙芝居の整理、弁償の問合せ対応などがあった<市立>。

②サイン・排架について

- ・移転して数カ月後の実習館だったため、図書館内の案内サインも十分ではなく、利用者としても慣れず、排架場所がわかりにくかった<市立>。
- ・書庫整理の時間が長かった（例：連続3時間）<市立>。

③カウンター

- ・カウンターで質問を受けることが多かった（例：本を見つけてほしい、どこにあるか）<市立>。

④指導体制等

- ・担当の図書館員は、ずっと忙しく事務室内だったので一人でカウンターをした<市立>。
- ・常時、実習担当の図書館員がついてくれた<都道府県立>。
- ・貸出返却がほとんどだったが、予約など不明なことは担当図書館員に代わってもらった<都道府県立>。
- ・分館の図書や旧分類資料もあるため、請求記号が違うので戸惑った<都道府県立>。
- ・いろいろな部署を回るため、説明が多かった。担当課としては、普段は触れないところの説明をしようとされていた（例：古代西洋の有名彫刻家の絵）。市立図書館に行った時も説明が多かった<都道府県立>。
- ・同時に合計4人が実習（スタート時期が異なる）した。人により移動図書館に行く人もあった<市立>。

⑤経験していなかったもの

- ・図書館システムでの新規登録、選書<市立>。

⑥もっと事前学習をしておけばよかったもの

- ・児童文学論。絵本選びに困ったから。おはなし会で、幼稚園向け、赤ちゃん向けなど、何を選んだらよいか苦勞した。習うより慣れよで、実物を見て感覚で選んだ<都道府県立>。
- ・レファレンス。レファレンスの紙をもらって、レファレンスに答えるという実習があった。データベースではなく、図書を引かないと答えられない問題が多くあった<都道府県立>。
- ・図書館の資料の配置。実習館では、新着雑誌がカウンター内にあり、カウンターで対応した。この実習館特有の事情で紛失が多いなどの理由だったらしく、問合せがよくあった<市立>。
- ・図書館システム。特定の図書館の独自対応的な部分もあるが、貸出ソフト（システム）で事前に練習できるといいと思う。中学校の図書委員の経験があったから、まだなんとなく記憶に残っていたが、システムが違うだけでも戸惑う。例えば、カウンターでの資料検索、カードをスキャンして、実際に貸出を体験したり、予約本の処理や予約者が来た時の対応、返却本の確認のうちシステム返却処理を行うなど<市立><都道府県立>。
- ・図書館の事前調査。県外から進学しているため、実習館を住所地か帰省先かで迷ってしまった結果、スケジュール調整ができず、実際に実習館に行って利用する十分な時間が取れなかった。また、ホームページにも十分な情報が出ていない図書館があるので、頻繁に利用して雰囲気慣れたり調査したり、資料を読み込んでおくことが必要だ<都道府県立>。

⑦実習の姿勢・態度

- ・仕事はいっぱいいっぱい余裕がなかった。初日は特にできなかったが、慣れたらできるようになった<市立>。
- ・メモ帳をいつもエプロンのポケットに入れておき、わからないことがあったときに、その都度質問して教えてもらう<市立>。
- ・一度言われたことはできるようにする<市立>。
- ・利用者を待たせてしまう場面では、「実習生」の札を付けていても利用者は見ていないため、「実習生の身でして」と理解を求めて待ってもらおう<市立>。
- ・時間が空く場合は、自分から仕事をもらいに行った<市立>。
- ・他の実習生が1日早く実習を始めていたので遠慮して、話しにくかった<市立>。

Q) 過去3年間の本学実習生に対する実習図書館側による評価として、「言葉遣い、挨拶」の評価が低かったが、これについてどう思うか？

- A) ・年上ばかりで館内で話す機会がなかった。スタッフ間では、報連相が大切。館内でも電話で情報交換を行う場合は、特に言葉遣いに気を付ける必要がある。わかっている本番では緊張した。本人にやる気がないといけない<市立>。
- ・学内では、先生に対して敬語が普通だが、“タメ口”（友達言葉）になっている人を見かける。アルバイト先でも良い接客が求められるのに、本学学生は人と話すのが苦手な人が多い。適切では

ない言葉の使い方がふとした時に出てしまったり、崩れたりすることがある。普段から敬語を使うことが大切だ（例：〇番の方どうぞご利用ください）〈市立〉。

- ・「これ、あれ」などの、こそあど言葉を使わないようにしたほうがよい。（「これをお預かりします」→「カードをお預かりします」）〈市立〉。
- ・貸出した図書の返却日がレシートに記載されていても、「〇日までです。」と言うほうがよい。字が小さく読みにくいのだが、高齢者など相手によって対応を変えないほうがよいかもしれない〈市立〉。

Q) 実習図書館による「判断、実行力」の評価が低いのだが、何か思い当たることがあるか？

A) 判断、実行力は、業務の慣れが必要だからしかたがない〈市立〉<都道府県立〉。

【考察】

今回の実習生3名は、本学の図書館である大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学附属図書館の図書館サポーター会の初年度の1年次からのメンバーであり、図書館への関心が極めて高く、積極性のある学生だった。それにも関わらず、かなり個人差があるが、事前調査や利用が十分ではなかったことを、各自、現場で強く感じたようだった。

次年度以降は、報告・意見交換に出てきたこれらの具体的な内容や、図書館実習館からの評価について実習生に示し、日常の言動の影響や現場での想定される事態への認識を深めるように指導したい。

また、図書館システムを使ったカウンター業務等は、経験や習熟度の違いにより処理スピードが変わるため、学内の附属図書館の協力を得て、事前に学内で練習できる機会をどのように増やせるか等についても検討する予定である。

5. おわりに

本稿では、一つは、司書養成科目を開講する全国の短大のシラバス調査により、司書養成科目を開講する短大数は減少傾向にあること、「図書館実習」を含めた選択科目の開講が最低の2科目が3科目が多いこと、そして「図書館実習」の履修制限の現状について概要を把握し考察した。二つ目に、その具体例として本学の最近の「図書館実習」の現状と今後について総括を行った。

世界的視野では、急速な人工知能（AI）分野の進展により、出版・書店業界や図書館が扱う情報・資料だけではなく、図書館員の立場や環境が予測を上回るスピードで変化する可能性がある。また、国内の高等教育機関では、18歳人口の減少に伴い、2018年以降の大学進学状況の変化が予想されることや、専修学校等の改革による新しい高等職業教育機関の創設案の動向²⁹⁾に注意が必要であり、高等教育機関の変動を念頭に置かなければならない。

公立図書館で、一部の業務を民間の会社に委託している図書館では、等しく公共サービスを行う公務員としての専任司書の役割が、図書館サービスの実務者からマネジメント的立場にシフトしていく傾向があり、住民のニーズを直接実感しにくくなっている。短大としては何のための司書資格か、どのような仕事のための司書養成か、図書館の理念・精神と実務的な能力の均衡等について考えさせられる。

今後も、図書館司書の『図書館実習Q&A』グループの「図書館実習」に関する調査や、専任教員が複数配置されている司書養成4年制大学の調査報告等、引き続き動向を注視する必要がある。激変する可能性のある社会情勢を背景に、人材育成に携わる教育・研究機関として、他の司書養成大学および実習図書館と連携して、短・長期的視野で「図書館実習」の在り方を見直す機会としたい。また、本学では、教養科目等の他分野の科目との関連を意識しつつ、司書養成科目全体や実習の事前指導等の再検討をしていく予定である。

注・参考文献

- 1) 文部科学省. 図書館法施行規則.
<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S25/S25F03501000027.html> (参照2016-12-25)
- 2) 川原亜希世, 中道厚子, 前川和子, 横山桂. 図書館実習Q&A. 日本図書館協会, 2013.4, p.7.
- 3) 文部科学省. 「司書養成科目開講大学一覧」(平成27年9月1日現在)212大学.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/04040502.htm (参照2016-12-25)
このウェブページに表記されている開講大学数「212大学」(内訳:「大学158」、「短期大学(部)58」)と、大学名の一覧上の開講大学数(実数)とに食い違いがある。本調査では後者を用いた(表2、表3)。
- 4) 短期大学設置基準
<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S50/S50F03501000021.html>
- 5) 高橋幸枝. 生きている図書館の直視(図書館実習<特集>)—(実習を受けて)
図書館雑誌. 70(12), 1976.12, p.496-497.
- 6) 森谷智. 図書館員の姿は何よりの教師だった(図書館実習<特集>)—(実習を受けて)
図書館雑誌. 70(12), 1976.12, p.495-496.
- 7) 裏田武夫. 教室から現場へのかけ橋—図書館実習特集によせて(図書館実習<特集>)
図書館雑誌. 70(12), 1976.12, p.485.
- 8) 高宮秀夫. 大学図書館 明日の図書館界の発展のために(図書館実習<特集>)—(受入側の立場から).
図書館雑誌. 70(12), 1976.12, p.492-494.
- 9) 森智彦. 東海大学司書課程における「図書館実習」について:その経緯および新課程における課題と対応. 情報社会試論. 13, 2013, p.19-34.
http://digital-narcis.org/information_society/voll3/vol.13_02_mori.pdf (参照2016-12-31)
- 10) 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告. “9 社会教育主事, 学芸員及び司書の養成, 研修等の改善方

- 策について（抄）” 文部科学省国立教育政策研究所社会教育実践研究センター. 平成25年度図書館に関する基礎資料. https://www.nier.go.jp/jissen/book/h25/pdf/t_all.pdf（参照2016-12-11）
- 11) 北克一, 杉本節子. 司書養成科目の構成構造とその関係性の考察：司書課程の経営の視座から. 学術情報総合センター紀要・情報学研究, 8, 2007.03, p.25-33.
 - 12) これからの図書館の在り方検討協力者会議. これからの図書館像―地域を支える情報拠点をめざして―. 2006年3月.
http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/286184/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701.htm
（参照2016-10-11）
 - 13) 文部科学省. これからの図書館の在り方検討協力者会議. 司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について（報告）. 2009年2月. http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/09/16/1243331_2.pdf（参照2016-10-11）
 - 14) 図書館法施行規則の一部を改正する省令及び博物館法施行規則の一部を改正する省令等の施行について（通知）.（2009年4月30日付, 文部科学省生涯学習政策局長から各都道府県教育委員会等宛文書）「図書館法施行規則に関する留意事項」.
http://www.mext.go.jp/a_menu/01_/08052911/005/1263234.htm（参照2016-10-11）
 - 15) 文部科学省 生涯学習政策局社会教育課. 改正司書養成科目に関するQ&A.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/1283540.htm（参照2016-10-11）
 - 16) 川原亜希世 [ほか]. 前掲書2), p.10-12.
 - 17) 志保田務. 図書館員の本棚：「図書館実習Q&A」川原亜希世, 中道厚子, 前川和子, 横山桂著. 図書館雑誌. 107 (10), 2013.10, p.653.
 - 18) 前川和子, 中道厚子, 川原亜希世, 横山桂. 図書館司書課程における図書館実習の現状. 図書館界. 61 (3), 2009.9, p.186-201. 2007-2008年（2007年7月、2008年1月、2008年3月の計3回）の司書課程を対象とした調査。
 - 19) 川原希世, 横山桂, 中道厚子, 前川和子. 公立図書館における図書館実習受け入れの現状. 図書館雑誌. 104 (5), 2010.5, p.292-295. 2009年9月の公立図書館対象の調査。
 - 20) 川原亜希世 [ほか]. 前掲書2).
 - 21) 川原亜希世. “図書館実習の実態：当該科目の開講にむけて”. 2013年度第1回研究集会の報告：発表1. 日本図書館協会図書館学教育部会会報. 104, 2013.10.2, p.19-21.
 - 22) 『図書館実習Q&A』グループ. 2016年度図書館実習アンケートの結果報告. 2016.9.3.
「司書課程における図書館実習状況調査」(2016年5月実施)に回答を行った図書館情報学(司書課程)教育担当教員宛に、同日付で、前掲同書の著者グループ(4名)から送付された報告。
 - 23) 川原亜希世 [ほか]. 前掲書2), p.26.
 - 24) 川原亜希世 [ほか]. 前掲書2), p.20.
 - 25) 川原亜希世 [ほか]. 前掲書2), p.21.

- 26) 文部科学省生涯学習政策局社会教育課. 改正司書養成科目に関するQ&A. 2009年7月. http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/1283540.htm (参照2016-12-31)
- 27) 大石正. 短期大学の役割：歴史，現状，課題. 奈良佐保短期大学研究紀要 = Bulletin of Nara Saho College (20), 2012.3.31, p.75-83. <http://id.nii.ac.jp/1349/00000029/> (参照2017-1-4)
- 28) 日本図書館協会図書館調査事業委員会. 日本の図書館：統計と名簿, 2014. 日本図書館協会, 2016.
- 29) 小林信一. 大学教育の境界：新しい高等職業教育機関をめぐって. レファレンス. 785, 2016.6. p.23-52. http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9998197_po_078502.pdf?contentNo=1 (参照2017-1-4)

表3-付表 <参照URL一覧>

No	短大名	参照URL (大学 Web サイトまたはシラバス等)
<公立短期大学>		
1	山形県立米沢女子短期大学	http://www.yone.ac.jp/department/lecture/shirabasu/h28_sisyo_sisyokyoyu.pdf
2	長野県短期大学	http://www.nagano-kentan.ac.jp/etc/kamokutou/subject.pdf
3	島根県立大学短期大学部	http://matsuec.u-shimane.ac.jp/department/sogobunka/syllabus/index.data/28_sobun_syllabus.pdf
<私立短期大学>		
1	帯人大谷短期大学	① http://www.oojc.ac.jp/?page_id=1217 ② http://www.oojc.ac.jp/web_ootani/wp-content/themes/ootani/pdf/syllabus/2016tiiki_1.pdf
2	釧路短期大学	http://www.midorigaoka.ac.jp/kushirojc/department_guidance/page_seikatu-kagaku/curriculum.html
3	國學院大學北海道短期大学部	http://www.kokugakuin.jp/kougiyoukou/2016/
4	札幌大学女子短期大学部	http://syllabus.sapporo-u.ac.jp/Syllabus/Sbsca010vi.jsp?p_param_1=205034-01
5	北海道武蔵女子短期大学	http://www.musashi-jc.ac.jp/education/general_edu/page_02
6	青森中央短期大学	http://www.chutan.ac.jp/faculty_packaging/infant/curriculum_syllabus/
7	聖和学園短期大学	http://www.seiwa.ac.jp/career/curriculum/
8	東北文教大学短期大学部	http://www.t-bunkyo.jp/jc/sougou/qualifications/shisyo.html
9	郡山女子大学短期大学部	http://www.koriyama-kgc.ac.jp/wp-content/uploads/2014/05/da9db049afe9c528d3f66e2f1a2055ef.pdf
10	桜の聖母短期大学	① 1年 https://www.sakuranoseibo.jp/wp-content/themes/seibo/data/guidance/h28_study_career1_shikaku.pdf ② 2年 https://www.sakuranoseibo.jp/wp-content/themes/seibo/data/guidance/h28_study_career2_shikaku.pdf
11	茨城女子短期大学	http://www.taisei.ac.jp/jp/iwjc/curriculum/table.html
12	つくば国際短期大学	http://www.ktt.ac.jp/tijc/gakkakosei.html
13	常磐短期大学	http://www.tokiwa.ac.jp/syllabus/
14	國學院大學栃木短期大学	http://www.kokugakuintoshigi.ac.jp/tandai/etc/info/kyouiku_jyuhou/sirabasu_h28/04.pdf
15	秋草学園短期大学	http://www.akikusa.ac.jp/tandai/course/cultural/career_3.html http://www.akikusa.ac.jp/tandai/web/pdf/cultural_career_3_syllabus2016_3.pdf#pagemode=bookmarks
16	十文字学園女子大学短期大学	http://www.jumonji-u.ac.jp/library/julic/index.html
17	聖徳大学短期大学部	https://www.seitoku.jp/univ/student.shtml
18	千葉経済大学短期大学部	http://www.chiba-kc.ac.jp/students/schoollife/syllabus.html
19	青山学院女子短期大学	① http://www.luce.aoyama.ac.jp/department/ ② http://syllabus.aoyama.ac.jp/
20	亜細亜大学短期大学部	http://www.asia-u.ac.jp/asu_news/2015/04/2435/

短期大学における「図書館実習」の現状

21	大妻女子大学短期大学部	http://otsuma.e-jugyo.jp/junior_college/search/V6100.php
22	実践女子短期大学	http://www.jissen.ac.jp/life/lesson_and_unit/u92b6g0000001fdt-att/23_2016_r_tan_tosho.pdf
23	昭和音楽大学短期大学部	http://www.tosei-showa-music.ac.jp/course/license.html
24	東京農業大学短期大学部	http://syllabus.nodai.ac.jp/portalv3_p/slbssbdr.do?value(risyunen)=2016&value(semekikn)=1&value(kougicd)=S4125&value(crclumcd)=
25	上田女子短期大学	http://www.uedawjc.ac.jp/study/culture/images/culture_syllabuss2016-1.pdf
26	信州豊南短期大学	https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/h28/genkomisisyosyllabus.pdf
27	松本大学松商短期大学 [部]	http://portal.matsu.ac.jp/mfufg_c2/bin/MFUFUG00000P.html
28	富山短期大学	http://www.toyama-c.ac.jp/management/curriculum.html
29	北陸学院大学短期大学部	http://www.hokurikugakuin.ac.jp/top/wp_top/wp-content/uploads/2016/07/3-j_syllabus.pdf
30	中部学院大学短期大学部	https://www.chubu-gu.ac.jp/college/earlychild/curriculum/documents/2016.pdf
31	愛知学泉短期大学	https://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/gakka/sogo/curri.html
32	愛知大学短期大学部	http://www.aichi-u.ac.jp/pdf/profile/curriculum.pdf#page=11
33	滋賀文教短期大学	http://www.s-bunkyo.ac.jp/syllabus/index.html
34	大谷大学短期大学部	http://syllabus-pub.jp/otani/open/SubjectSearchByDepartment.do?faculty=1&department=153
35	京都女子大学短期大学部	http://www.kyoto-wu.ac.jp/gakuen/rinen/history/chronological.html
36	華頂短期大学	http://www.kacho-college.ac.jp/course/history/curriculum.html
37	大阪城南女子短期大学	http://jonan.jp/library/tandai_n2015/about04/pdf/2016_07_syllabus.pdf
38	大阪成蹊短期大学	http://tandai.osaka-seikei.jp/department/pdf/librarian.pdf
39	関西外国語大学短期大学部	http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.college.roadmap.curriculum.pdf
40	鳥取短期大学	http://www.cygnus.ac.jp/studentonly/index.html#syllabus
41	岡山短期大学	http://www.owc.ac.jp/pdf/2012shishosyllabus.pdf
42	就実短期大学	http://www.shujitsu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/04/fc36695a468b4ce79757aef765280960.pdf
43	徳島文理大学短期大学部	http://ss.pt.bunri-u.ac.jp/syllabus/ichiran.php?ID=6K&year=2016
44	九州大谷短期大学	http://www.kyushuotani.ac.jp/department/field2/
45	福岡女子短期大学	http://www.fukuoka-wjc.ac.jp/syllabus/data/bunkacom.htm#bunkacom2
46	佐賀女子短期大学	http://www.asahigakuen.ac.jp/sajotan/subject/community_future/global_coexistence/curriculum
47	九州龍谷短期大学	http://www.k-ryukoku.ac.jp/subject/community/curriculum/
48	別府大学短期大学部	http://www.beppu-u.ac.jp/course/license/librarian/
49	宮崎学園短期大学	http://www.mwjc.ac.jp/course/gendai/ http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2016_gendaibijinesukarikyu.pdf
50	鹿児島国際大学短期大学部	http://www.iuk.ac.jp/tandaibu/index.html
51	鹿児島純心女子短期大学	https://lcb.k-junshin.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on
52	鹿児島女子短期大学	http://www.jkajyo.ac.jp/introduction/syllabus2016-C.pdf

(きたがわ まさこ：講師)